

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：愛媛大学精神科専門医研修プログラム
- プログラム担当者氏名：伊賀淳一
住 所：〒791-0295 愛媛県東温市志津川
電話番号：089-960-5315
F A X：089-960-5317
E-mail：iga.junichi.it@ehime-u.ac.jp
- 専攻医の募集人数：（ 10 ）人
- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先：〒791-0295 愛媛県東温市志津川 愛媛大学大学院精神神経科学講座
伊賀淳一
電話番号：089-960-5315
F A X：089-960-5317
担当者：伊賀淳一（准教授）
- 採用判定方法：教授・准教授が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。
2. 使命（全プログラム共通項目）
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

穏やかな瀬戸内海と霊峰石鎚をはじめとする山々に囲まれ、1年を通して温暖で過ごしやすい愛媛県。その県庁所在地であり、秋山兄弟など近代日本の立役者に縁があり道後温泉でも有名な松山市に隣接する東温市に愛媛大学附属病院がある。我が精神神経科学教室は、多くの諸先輩方と地域の人々に支えられ、本学の理念である「患者から学び患者に還元する教育、研究、医療」を日々実践している。また、臨床を基本として、医師のみならず心理士や精神保健福祉士、言語聴覚士、作業療法士などの多職種を交えた研究や検討会、カンファレンスを随時行っている。こうした疾患へのアプローチが、神経化学や神経心理学、児童青年期など多岐にわたっていることも当教室の特徴と言える。

基幹病院となる愛媛大学附属病院は、大学病院精神科として40床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保している。愛媛県では、当院と四国中央病院にしか有床の総合病院精神科が存在しないため、県全域から紹介される難治例、摂食障害などの身体合併症例のほとんどのケースに対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせ、患者にとって最善の治療を行っている。「子供のこころセンター」や「認知症疾患医療センター」なども設置しており、研修の過程で児童から老人までほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

また、四国中央病院、双岩病院、松山記念病院、松風病院、十全第二病院、財団新居浜病院、正光会今治病院、堀江病院、正光会宇和島病院といった県全域の医療機関を連携施設として有しており、専攻医はこれらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を含有しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。精神疾患を持つ患者のこれら複雑を極める精神現象を理解し、治療をするために、患者への試みは、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてにメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐にわたっている。脳画像研究、分子生物学的研究、児童思春期や老年期の精神疾患の疫学研究なども並行して行えるのは愛媛大学精神科の特色である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：35人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2800	726
F1	563	222
F2	4338	1207
F3	2968	502
F4 F50	2135	188
F4 F7 F8 F9 F50	3171	303
F6	95	24
その他	40	3

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：愛媛大学附属病院
- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：三浦裕正
- ・プログラム統括責任者氏名：上野修一
- ・指導責任者氏名：伊賀淳一
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	238	30
F1	16	1
F2	145	39

F3	205	28
F4 F50	169	15
F4 F7 F8 F9 F50	362	26
F6	10	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 626 床を有する大規模な総合病院であり、精神科は 40 床の病棟を有している。高度専門医療機関として、難治性の症例を中心に認知症（F0）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）などの治療に当たっている。思春期症例、摂食障害、身体合併症、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験することができる。日本精神神経学会はもちろんのこと、日本老年精神医学会や日本臨床精神神経薬理学会の専門医、指導医が多数所属しており、専門教育や研究にも力を入れている。

B 研修連携施設

① 施設名：公立学校共済組合 四国中央病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：鎌田正晴
- ・指導責任者氏名：白石公
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 46 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	331	18
F1	26	3
F2	241	30
F3	406	24
F4 F50	297	6

F4 F7 F8 F9 F50	353	8
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は全国8病院の公立学校共済組合直営病院の6番目として昭和34年に開設された。18診療科、275床を有する東予地区を代表する総合病院であり、精神科も46床を有している。気分障害（F3）、統合失調症（F2）、認知症（F0）、てんかんなどの患者が多く受診、治療している。教職員対象のメンタルヘルスでは、個別面談による心の相談事業、リラクゼーション機器による心の癒し体験や早期発見に結び付くストレスチェックを行っており、精神疾患の発症予防、早期発見、治療、社会・職場復帰訓練を一貫して行っているのが特徴である。

② 施設名：八幡浜医師会立双岩病院

- ・施設形態：公的精神科病院
- ・院長名：松本光央
- ・指導責任者氏名：松本光央
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 178 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	88	24
F1	28	5
F2	338	22
F3	175	33
F4 F50	77	22
F4 F7 F8 F9 F50	174	34
F6	15	4
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は全国唯一の医師会立単科精神科病院であり、八幡浜市、西予市、伊方町を中心にデイケアや訪問看護などの地域精神医療に取り組んでいる。診療所などに勤務する八幡浜医師会員が主治医となって身体合併症の入院治療を行う精神科オープンシステムを採用しており、統合失調症や認知症のリエゾン症例が豊富である。スクールカウンセリング事業を足掛かりに児童思春期症例の治療にも取り組んでいる。伊方原発を有する八幡浜圏域において、東南海トラフ地震の際に医師会員が集結して被災市民の治療にあたる災害拠点病院にも指定されている。

③ 施設名：一般財団法人創精会 松山記念病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：和氣現人
- ・指導責任者氏名：前田宏章
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 743 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	456	179
F1	212	84
F2	1276	387
F3	688	200
F4 F50	382	74
F4 F7 F8 F9 F50	549	120
F6	27	9
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、「いつでも安心して入院できる病院」を理念として、地域・在宅支援を含む救急・急性期治療をはじめとする幅広い精神疾患を対象とした医療を提供している。743床のケアミックス型の精神科病院として精神科救急病棟、精神科

急性期治療病棟、特殊疾患病棟、認知症・老年性精神疾患病棟、慢性期治療病棟を備えており、身体合併症に加え、統合失調症、うつ病、認知症、思春期症例、措置症例、医療観察通院処遇症例、クロザリル治療症例を含む多様な精神疾患の入院治療から地域医療までの実践経験を積むことができる。

④ 施設名：医療法人誓生会 松風病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：森野日出緒
- ・指導責任者氏名：森野日出緒
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 204 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	331	66
F1	41	16
F2	161	47
F3	158	34
F4 F50	147	6
F4 F7 F8 F9 F50	310	18
F6	17	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神病床 204 床、療養型病床 45 床を有する、四国中央市の民間医療機関である。指定病床を有し、二次医療圏内の精神科救急医療を担うと共に、東予地域の一般精神科臨床に幅広く取り組んでいる。物忘れ外来を開設し、認知症疾患等の老人性精神障害を多く受け入れている。同時に、四国中央市の発達支援事業や就学指導事業に関わり、児童思春期の精神科臨床にも取り組んでいる。医療観察法の指定通院医療機関であり、鑑定入院など司法精神医学の研鑽を積むことが可能である。

⑤ 施設名：十全第二病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：武田直也
- ・指導責任者氏名：武田直也
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 250 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	550	124
F1	60	22
F2	566	163
F3	459	37
F4 F50	506	23
F4 F7 F8 F9 F50	587	30
F6	2	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

愛媛県内でも早くから精神科急性期病棟の基準を取得し、急性期治療に力を入れている。精神科訪問看護ステーション、精神科デイケア、障害者生活訓練施設が併設しており、地域移行、社会復帰支援、在宅ケア支援も積極的に行っている。H25年4月から愛媛県認知症疾患医療センター(地域拠点センター)として、地域の認知症疾患に対する統括的な業務を行っており、地域での認知症研修会、講演会、連携協議会等も運営している。統合失調症圏(F2)、気分障害(F3)、神経症(F4)、認知症・器質性精神障害(F0)を中心に、豊富な症例を経験することができる。

⑥ 施設名：財団新居浜病院

- ・施設形態：私立病院

- ・ 院長名：西谷周作
- ・ 指導責任者氏名：杉山潤
- ・ 指導医人数：(3) 人
- ・ 精神科病床数：(415) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	325	53
F1	28	8
F2	380	75
F3	301	34
F4 F50	208	7
F4 F7 F8 F9 F50	317	9
F6	1	1
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 415 床を有する精神科単科病院であり、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。また、415 床の内 58 床の認知症治療病棟もあり、多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができる。

⑦ 施設名：公益財団法人正光会 今治病院

- ・ 施設形態：私立病院
- ・ 院長名：溝渕睦彦
- ・ 指導責任者氏名：溝渕睦彦
- ・ 指導医人数：(4) 人
- ・ 精神科病床数：(343) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	195	147
F1	50	35
F2	583	270
F3	158	37
F4 F50	130	12
F4 F7 F8 F9 F50	241	33
F6	13	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院の診療圏は今治市と西条市西部（旧東予市等）及び瀬戸内海の島々も含み、人口約 22 万人を有している。島嶼部、市内の老人ホームや介護老人福祉施設などへの往診も積極的に行っている。診療圏の精神科救急を 1 年中 24 時間対応している。60 床の急性期治療病棟を中心とした入院医療と多彩な外来患者に対処できる診断・治療全般について学ぶことができる。児童・思春期精神疾患、依存症、認知症（地域拠点センター）に関して最も力を注いでいる。

⑧ 施設名：堀江病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：細田能希
- ・指導責任者氏名：細田欣也
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 200 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	56	31
F1	25	14
F2	313	62

F3	167	51
F4 F50	124	16
F4 F7 F8 F9 F50	230	22
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は200床の精神科単科の病院である。精神科急性期治療病棟2を1個病棟、精神一般15対1を1個病棟、精神療養病棟を2個病棟（うち一つは設備的には認知症疾患治療病棟の基準を満たし高齢者対応の病棟）の4個病棟がある。入院では、認知症、アルコール依存症、統合失調症圏、気分障害圏が多数を占め、外来では、それらの疾患に加え、知的障害、発達障害圏の患者も多い。治療プログラムとしては、アルコールリハビリテーションプログラム（ARP）、生活技能訓練（SST）、精神科作業療法、精神科デイケア等も行っている。

⑨ 施設名：公益財団法人正光会 宇和島病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：山内宏治
- ・指導責任者氏名：山内宏治
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 282 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	230	54
F1	77	34
F2	335	112
F3	251	24
F4 F50	95	7

F4 F7 F8 F9 F50	48	3
F6	7	1
その他	40	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

南予に位置する282床（精神一般60床、精神療養120床、認知症病棟50床、急性期52床）の中核的単科精神病院である。アルコールを中心とした依存症、うつ病患者等への認知行動療法については、厚生労働省の研修事業でも指導している医師らによる専門的な指導が可能である。統合失調症や重症の気分障害に対するリカバリー志向の心理教育(illness management and recovery)の実施や認知症疾患医療センターの活動、各所に展開された地域支援サービスと連携しての退院支援、市内の総合病院と連携したリエゾン・コンサルテーションや緩和医療なども経験できる。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間内に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院で指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害、児童思春期、摂食障害、認知症の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：基幹病院または連携病院で、指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹病院において他科の専攻医とともに研修会が実施される。リエゾン・コンサルテーションを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 医師患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーションリエゾンといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹病院において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

まずは基幹病院において精神医学の知識や臨床疑問に対する回答について自己学習する方法の基本を学ぶ。特にインターネットを用いた英文や日本語文

献の検索方法など自己学習に必要な方法を学ぶ。また標準的な精神医学の教科書、各学会の作成した疾患治療ガイドライン、学術雑誌に基づいた指導をすることで研修期間を通じた自己学習の参考とする。他の医療機関での診療に関わることも行う可能性がある。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院Aで精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目には総合病院精神科(B①)、単科精神科病院(B②～⑦)を各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を高めていく。これら3年間のローテート順については、専攻医の人数などを考慮したうえでプログラム管理委員会が決定する。

5) 研修の週間・年間計画
別紙2と別紙3を参照

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

—委員長 医師：上野修一

医師：伊賀淳一

医師：白石公

医師：松本光央

医師：前田宏章

医師：森野日出緒

医師：武田直也

医師：杉山潤

医師：溝渕睦彦

医師：細田欣也

医師：山内宏治

看護師：日野由佳子

精神保健福祉士：内藤桂子

・プログラム統括責任者

医師：上野修一

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

愛媛大学附属病院：上野修一、伊賀淳一、日野由佳子、内藤桂子
四国中央病院：白石公
双岩病院：松本光央
松山記念病院：前田宏章
松風病院：森野日出緒
十全第二病院：武田直也
財団新居浜病院：杉山潤
正光会今治病院：溝渕睦彦
堀江病院：細田欣也
正光会宇和島病院：山内宏治

2) 評価時期と評価方法

- ・3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6か月ごとに評価し、フィードバックをする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。愛媛大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

－専攻医研修マニュアル(別紙)

－指導医マニュアル(別紙)

- ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこなうこと。研修を修了

しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとに達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）
各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理
各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良
基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラムの内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施
年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

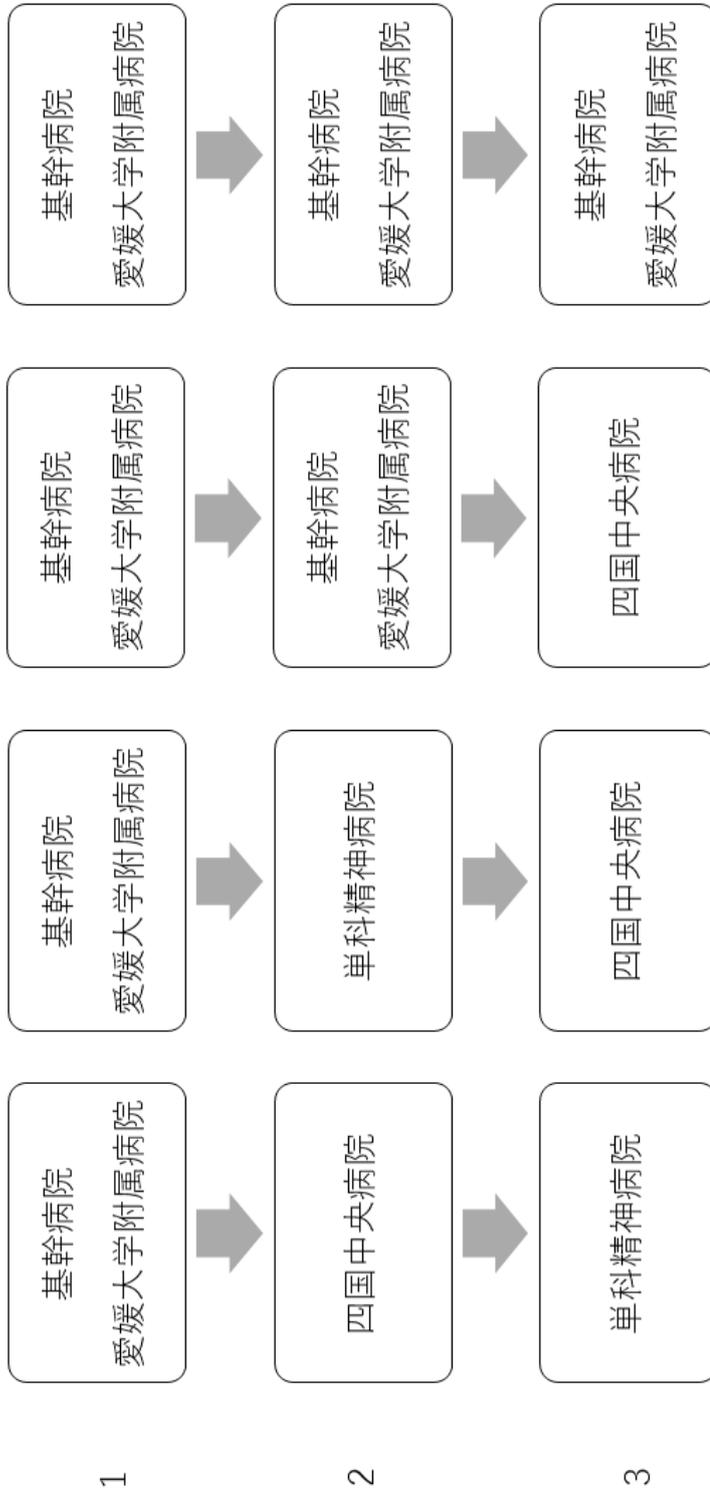
別紙1 ローテーションの例

パターンA

パターンB

愛媛大学
地域枠

愛媛大学
大学院



単科精神病院：松山記念病院（松山市）、双岩病院（八幡浜市）、松風病院（四国中央市）、十全第二病院（新居浜市）、財団新居浜病院（新居浜市）、正光会今治病院（今治市）、堀江病院（松山市）、正光会宇和島病院（宇和島市）

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

① 愛媛大学附属病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟診察 グループカ ンファ	病棟業務	連携病院勤 務	外来予診 リエゾン	病棟診察 精神医学セ ミナー
午後	教授回診	作業療法、病 棟レクリエ ーション	連携病院勤 務	病棟業務	病棟診察 医局会 論文輪読会
夕方	薬剤勉強会	病棟業務			行動制限最 小化委員会
夜		連携病院勤 務			

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

② 四国中央病院

	月	火	水	木	金
8:30~12:00	大学研修	病棟業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00~13:20		昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ
13:30~14:30		病棟業務	新患診察	新患診察	新患診察
14:30~15:30		病棟症例検 討会	病棟カンフ ア	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン
15:30~17:15		リエゾン	病棟業務・リ エゾン		

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

③ 双岩病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	大学研修	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
		外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン
午後		昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ
		病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察
		院長回診			院長回診

※ 午後の病棟診察の間にケースカンファを実施する。

※ 第3木曜行動制限最小化委員会 16：15～17：15

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

④ 松山記念病院

	月	火	水	木	金
8：30- 12：00	大学研修	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
13：00- 14：00		病棟業務	医局会	病棟業務	医局勉強会
14：00- 14：30			入院報告会		
14：30- 17：00			病棟業務		
17：30- 18：30			症例検討会 輪読会		

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑤ 松風病院

	月	火	水	木	金
8:30-8:40	大学研修	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:40-12:00		病棟業務	外来業務	病棟業務	外来業務
13:30-13:50		病棟業務	病棟勤務	病棟勤務 〔病棟内多職 種カンファレ ンスを含む〕	病棟業務
13:50-17:00					
15:30-17:00		カンファレ ンス			カンファレ ンス

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑥ 十全第二病院

	月	火	水	木	金
8:30-8:40	大学研修	朝カンファ	新入院紹介	朝カンファ	朝カンファ
8:40-12:00		外来業務	病棟業務	病棟業務	外来予審 外来業務
13:30-16:00		病棟業務	外来予審 外来業務	急性期病棟 カンファ	病棟業務
16:00-17:00		認知症カンファ	病床運用 会議	リエゾン 往診	論文抄読会
17:00-18:00					

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑦ 財団新居浜病院

	月	火	水	木	金
午 前	大学研修	外 来 予診回診	自己学習	外 来	病棟業務
午 後		病棟業務 教育回診	自己学習	外 来	病棟業務
17 時以降					医局会 症例検討会

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑧ 正光会今治病院

	月	火	水	木	金
午前	大学研修	外来業務・往診	外来業務	病棟業務	認知症疾患センター業務 病棟勤務
13:00~13:30		医局会・回診	症例検討会・抄読会		
午後		リエゾン・病棟業務	病棟業務	外来業務	アルコールリハビリプログラム 病棟業務・往診

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑨ 堀江病院

	月	火	水	木	金
午前	大学研修	病棟業務	病棟業務	病棟業務	外来
	昼休み				
午後	大学研修	医局会 ケースcf.	ARP	他施設 回診	SST
		病棟業務	病棟業務		*感染対策 褥瘡対策
			*医療安全委		

*月1回 無い週は病棟業務
新患 予診 or 担当は随時

別紙2：週間計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑩ 正光会宇和島病院

	月	火	水	木	金
始業前	大学研修		症例検討会		
午前		外来業務	認知行動療法 病棟カンファレンス	病棟業務 心理教育 (IMR)	外来業務
午後		病棟業務 認知行動療法・SST	新患診察（予約） 回診	アルコール リハビリプログラム 病棟業務	リエゾン
17時以降			医局会		

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

① 愛媛大学附属病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	
3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

② 四国中央病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	認知症サロン（第一回）参加 日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	認知症センター事例検討会（第一回）参加 日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	認知症事例検討会（第2回）参加
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

③ 双岩病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意） 県精神科集談会参加／脳波懇話会参加 精神身体合併症研究会参加
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意） 教育研究会参加 脳波懇話会参加
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 脳波懇話会参加
12月	研修プログラム管理委員会開催 脳波懇話会参加
1月	県精神科集談会参加
2月	
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 精神身体合併症研究会参加

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

④ 松山記念病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 ふれあい祭り参加
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意） 夏祭り参加
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意） 症例発表会参加
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意） 精神障害者フットサル大会参加
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 文化祭参加
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	症例発表会参加
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑤ 松風病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑥ 十全第二病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 認知症疾患医療センター事例検討会(西条市)参加
5月	教室研究会参加 認知症疾患医療センター事例検討会(新居浜)参加 認知症疾患医療センター連携協議会(新居浜・西条)参加 新居浜市医師会学術講演会(精神科領域)参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7月	日本神経精神薬理学会参加(任意) 認知症疾患医療センター事例検討会(新居浜)参加
8月	日本うつ病学会参加(任意) 認知症疾患医療センター事例検討会(西条市)参加
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加(任意) 認知症疾患医療センター事例検討会(新居浜)参加 新居浜認知症ネットワーク学術講演会参加
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加(任意) 上半期の研修評価と中間面接
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加(任意) 認知症疾患医療センター事例検討会(新居浜)参加
12月	研修プログラム管理委員会開催 認知症疾患医療センター事例検討会(西条市)参加
1月	新居浜認知症ネットワーク学術講演会参加
2月	認知症疾患医療センター連携協議会(新居浜・西条) 新居浜市医師会学術講演会(精神科領域)
3月	SR2・3研修報告書 研修評価と期末面接

	研修プログラム評価報告書の作成
--	-----------------

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑦ 財団新居浜病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

※ 年3回迄の学会出張費は当院負担

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑧ 正光会今治病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意） 認知症疾患医療センター講演会
8月	日本うつ病学会参加（任意） 認知症疾患医療センター事例検討会
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意） アルコール・薬物依存関連学会参加
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	認知症疾患医療センター事例検討会
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑨ 堀江病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加 地域懇談会・地域バザール 感染対策基幹病院c f.
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意） 看護学校講義
8月	日本うつ病学会参加（任意） 感染対策基幹病院c f.
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意） 院内研究発表会
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 感染対策基幹病院c f.
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	感染対策基幹病院c f.
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3：年間計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑩ 正光会宇和島病院

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	教室研究会参加 法人内医療研究会（講演・演題発表など）
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意） 法人内医療研究会（講演・演題発表など）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	
3月	SR2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成